

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域と大学の宝が、活動を通して、共に学び育つ			
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	園田学園女子大学		
	活動グループ名	江寄ゼミ (3年生)	参加学生等人数	8人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等名称	人間健康学部総合健康学科		
	責任者氏名	江寄和子	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	NPO 法人スマイルひろば		
	代表者氏名	中井澄江	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	<p>(地域の福祉課題の解決に向けた目的及び目標について記載してください。)</p> <p>近年、地域の様々な課題解決のために、福祉と教育の連携が求められている。すなわち、地域の教育課題に取り組むことが地域の福祉課題解決につながるのではないだろうか。</p> <p>尼崎市には他都市同様、不登校、いじめ、体罰、メンタルヘルス(コロナ禍によるストレス)等様々な教育課題がある。</p> <p>本活動の目的は、学生が NPO 法人スマイルひろばでの活動を通して、自身の資質能力を高め、地域課題に向き合うことで地域課題解決貢献に資することとした。</p> <p>本学人間健康学部総合健康学科養護コース江寄ゼミ(3年生)は全員が養護教諭を志望しており、2017(平成 29)年度から、養護教諭としての資質・能力を高める目的で、科目「健康学演習」で、NPO 法人スマイルひろばの活動に参加し、今年度で 6 年目となる。(「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」への応募は 4 回目である。)</p> <p>2017(平成 29)年度～2019(令和元)年度は「スマイルカフェ」「す～ちゃん食堂」で活動し、2020(令和 2)年度はコロナ禍の中、オンラインで中学生と交流する活動を行い、2021(令和 3)・2022(令和 4)年度は「こどもたちの遊び場」で遊び支援、学習支援の活動を行った。</p> <p>「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」へ応募した 4 回は以下の様に成果報告を行った。2018(平成 30)年度は、本学主催「まちづくり解剖学」で報告したが、2019(令和元)年度はコロナ禍で紙上報告となった。(2020(令和 2)年度は本事業に申請していない。)2021(令和 3)年度もコロナ禍で紙上報告を行った。2022(令和 4)年度は、紙上並びに学生が出演の動画として報告した。そして、2022(令和 4)年度は学生に「エフエムあまがさき」への出演依頼があり、本活動の報告を行った(放送日 2/23)。また、担当教員には学内FD研修会への講師依頼があり、学内教職員向けに本活動の報告を行った(研修日 3/1)。</p>			
活動内容及び 実績、評価	【添付資料参照】			

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。

2022年度 尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業実施報告

教育・研究活動名

「地域と大学の宝が、活動を通して、共に学び育つ」

園田学園女子大学総合健康学科江崎ゼミ（3回生）×NPO法人スマイルひろば

【目的】

近年、地域の様々な課題解決のために、福祉と教育の連携が求められている。すなわち、地域の教育課題に取り組むことが地域の福祉課題解決につながると考えた。

尼崎市には他都市同様、不登校、いじめ、体罰、メンタルヘルス（コロナ禍によるストレス）等様々な教育課題がある。本活動の目的は、学生がNPO法人スマイルひろばでの活動を通して、自身の資質能力を高め、地域課題に向き合うことで地域課題解決貢献に資することとした。

活動方法 養護教諭志望の学生×地域の子どもたち

* NPO法人スマイルひろばが運営を行う

放課後の居場所

「尼崎市立地域総合センター神崎」での
「放課後の居場所」

小学生から
中学生まで

- ・科目「健康学演習」（ゼミ）で学外見学（研修）の位置付けとする。
- ・通年で一人10回、学生が自分でスケジュール調整をする。
- ・内容は子どもたちに合わせて、学習支援・遊び支援を行う。
- ・1回の訪問人数は2名とする。
- ・活動時間は90分とする。
- ・毎回、活動記録で振り返る。



園田学園女子大学経験値教育サイクル（当時）

活動報告

活動の流れ（年間）

2022年5月17日（火）～12月8日（木）

【1学期】

2022年5月17日（火）～7月20日（水）

【2学期】

2022年9月13日（火）～12月8日（木）

- ・6名が、2学期の「養護実習（3～4週間）」を挟んでの活動であった。
- ・のべ活動回数：80回



活動報告



活動の流れ（1回）

《小中学生対象》
(15:30~17:00)



- ・小中学生が来館し、室内で自由に過ごす中で、学習支援・遊び支援を行った。
- *宿題・折り紙・おしゃべり・カードゲーム、等
- *卓球、ビリヤード、等



SONODA Yogo teacher course Since 2002

4

活動報告

活動の成果

当日の振り返り

～ NPO 担当者 × 学生 × 江崎先生 みんなで振り返り～
◇毎回、活動時間終了後、別室で5分程度で全員が活動を振り返る。

- ・活動に参加して感じたこと(感想)
- ・子どもの様子で気になったこと(発言・態度など)
- ・こういう時どうしたらいいの？

⇒ NPO 担当者 から、コメント・アドバイス

SONODA Yogo teacher course Since 2002

5

・感想（学生）

- *一緒に参加した学生の考えを聞いて良かった。
(自分とは違う目線の意見を聞いて良かった。)
- * NPO 担当者が、自分たちが言いたいことを理解してくれた上でコメントを返してくれたので良かった。
- * その日のうちにその日の活動を振り返られた。
(自分の中でまとめられた。)
- * 活動中も、反省会で何を話すか考えながら活動した。
(反省会で報告するため、子どもたちの言動に意識を向けられるようになった。)



6

活動記録の作成

～学生個人の振り返り～

◇学生は毎回、個人で活動を振り返る。

活動記録（A4 1枚）を作成しゼミ担任（江寄）へ提出
⇒江寄のコメント ⇒ NPO 担当者のコメント ⇒ 返却

【内容】

- ・ 本日の目標
- ・ 本日の活動内容
- ・ 活動の振り返り（エピソード、感想、学んだこと、疑問など）
- ・ 次回の目標
- ・ 指導者のコメント

・感想

- * 文字に起こすことで学んだことを明確にできた。
- * フォーマットがあつてまとめやすかった。
- * 江寄先生とNPO 担当者の両方の意見が分かり自分の学びに活かすことができた。
- * 本日の目標を決めるのが難しかった。
(どんな子どもたちが来るのか予測できないため。)
- * 活動内容を言語化するのが難しかった。
- * 活動後にどのような活動をしたのか思い出す資料となった。

「NPO法人スマイルひろば」の活動を通して分かったこと

- * 子どもたちにとっての、学校・家庭以外の温かい居場所の大切さ。
- * 子どもの多様性。子どもによって言動が様々。
- * 子どもの言動から、家庭や背景が分かること。
- * 子どもたちにルールを守らせる指導の難しさ。
- * 子どもの目線に立って考えることの大切さ。
(複数の子どもに注意をしても受け止め方がそれぞれ。)
- * 子ども全体（集団）を見ることの大切さ。
- * 子どもは予測不可能。

「NPO法人スマイルひろば」より

* 短時間かつ限られた回数での関わりで、緊張し模索しながら場に臨まれているからこそ、地域の子どもたちが学生に優しく接していたり、逆に困らせて?いたり、普段の私たちの関わりでは見過ごしていたり、見られなかったりする、子どもたちの表情や言動が垣間見えました。それは、私たちの日々の関わりを振り返ることにもつながり、また、子どもたちにとっても、多様な大人と関わる貴重な経験になったと強く感じました。

* 子どもたちにより近い年齢の学生のみなさんが、受容的に、楽しく「ただ単に遊ぶ」という関わりを通して、子どもたちが学校生活や自分の心身について気になっていること等、いろんな話をしていたり、私たちだけでは分からない様子をキャッチして頂いたことは、とても有難かったです。

* 学生がめざす養護教諭的な関わりと、私たちが大事にする地域のあそび場としての関わり、双方の視点（加えて指導教員の専門的な視点）を振り返り記録等で共有する中で、学生の学びだけでなく、担当スタッフの学びにもつながり、単に遊び相手としての学生に来てもらう、ということではない、大学（生）の地域課題への貢献を実感することが出来、研修機会の少ない地域団体にとっては、大変貴重な機会です。